

自然博物館
ニュース

A·MUSEUM ア・ミュージアム

vol.18



ミュージアムパーク
茨城県自然博物館



「那珂湊白亜紀層」に見られる海底地すべりでつくれられた地層。(中央の水平な地層の上に褶曲して折れ曲がり塊状になった地層が重なっている。)

茨城県指定天然記念物「那珂湊白亜紀層」

南北約180kmに延びる茨城の海岸の中程、ひたちなか市（旧那珂湊市）平磯町から磯崎町にかけて分布する「那珂湊白亜紀層」。一部に泥岩や砂岩、れき岩の層が見られますが、大部分は、泥岩と砂岩が交互に重なった地層からなり、北に傾斜した地層が約3kmに渡って見られます。この地層は、那珂湊層群平磯層及び磯合層と呼ばれ、恐竜やアンモナイトが絶滅する少し前の中生代も終わろうとしている約7～8千万年前の頃、沖合の大陸棚から大陸斜面付近の海底で堆積したものとされています。この中には、ときどき、上下の層が平行で、間の一枚の層だけが褶曲したものが見られます。これは、「スランピング」と呼ばれ、表層の地層だけが海底地すべりで押し縮められて形成されたと考えられています。

この地層からは、ディディモセラスやバキュリーテスという巻貝の解けたアンモナイトの化石が発見されており、付近の岩礁帯は茨城県の天然記念物に指定されています。

(資料課：菅谷)



「那珂湊白亜紀層」から産出したアンモナイト ディディモセラス
アワジエンゼ *Didymoceras awajiense* (Yabe)

第15回企画展

姉妹館締結記念・ロサンゼルス郡立自然史博物館協力展

鯨 Cetacea 三次元のゆりかごのなかで…

Masters of the Ocean Realm: Whales, Dolphins, and Porpoises



茨城県沖を泳ぐマッコウクジラ (©加藤秀弘)



噴気を上げるシロナガスクジラ (©加藤秀弘)



ツリンジットインディアンとシャチ



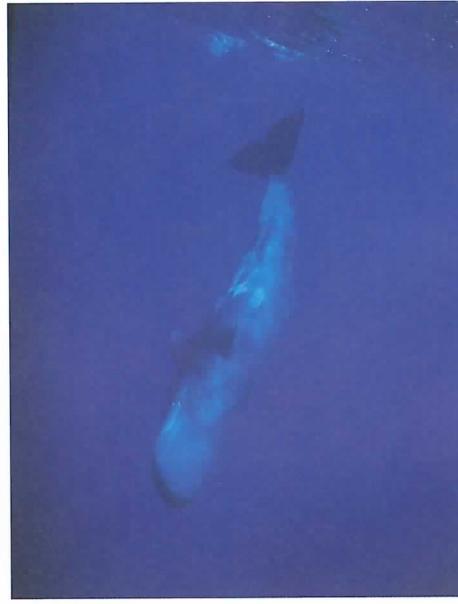
マイルカのジオラマ



熊野古座浦捕鯨図 (和中光次蔵©和歌山県立自然博物館)



鯨図巻 (和中光次蔵©和歌山県立自然博物館)



潜水中のマッコウクジラ (©シータック)

●記念イベント

1月10日（日）記念講演会「鯨とイルカの不思議」

講師：ロサンゼルス郡立自然史博物館 鯨類研究者 ジョン・E・ヘイニング博士

2月11日（木）講演会「ミカコと話そうクジラ・イルカの話」講師：小谷実可子氏

※要事前申込（往復ハガキにて、1月25日消印有効）

3月14日（日）ホエールウォッチングツアー ※要事前申込（参加費：大人4,000円、子供2,000円）応募者多数の場合抽選

3月21日（日）空とぶ鯨を飛ばそう

●入館料

大人 710円 (570円)

高・大学生 480円 (290円)

小・中学生 140円 (70円)

* () 内は20名以上の団体料金です。

* この料金には、常設展・野外施設入場料が含まれています。

クジラ類は、陸上にすむウシやラクダの仲間の有蹄類であるメソニクス類から進化したと考えられています。

現在発見されている最古のクジラ類の化石は、パキスタンの今から約5,200万年前の地層から発見されたアンブロケタスで、陸上と水中を生活の場にしていたようです。

その後、外敵が少なく、えさが豊富にある海中に進出し、長い時間をかけて体が水中での生活に適応できるようになりました。

クジラ類は、原始的なムカシクジラ類から、歯をもったクジラの仲間のハクジラ類と上あごにえさをこしとるクジラヒゲをもつヒゲクジラ類に進化し、現在、世界の大洋と大河に79種が生息しています。

今回の企画展ではロサンゼルス郡立自然史博物館との姉妹館締結を記念し、同博物館の協力のもとに不思議なクジラ類の進化、形態のいろいろ、ヒゲクジラ類とハクジラ類の食性のちがい、水中生活への適応、クジラの社会性、DNAの調査や座礁したクジラからの生物学的情報、個体識別調査などの研究成果や人とクジラの文化を紹介するとともに、海洋環境の悪化により、絶滅の危機にあるクジラの保護についてを紹介します。

第二部の「日本人とクジラ文化」は、身近にいるクジラと日本人との関わりをテーマにした本館独自で制作した展示です。

日本のまわりの海は、いろいろな種類のクジラの回遊路となっており、40種近くのクジラが見つかっています。ここでは、貝塚から出土したクジラ類、絵巻物に描かれた古式捕鯨の様子や細かく観察されたクジラの生物学的スケッチ、古文書資料、古式捕鯨資料などで日本人とクジラの関わりを知っていただくとともに、明治以降の捕鯨やなつかしい玩具、茨城や千葉に漂着した身近にいるクジラ類についても実物資料や写真で紹介します。

（企画課：国府田）

研究ノート●菅生沼のオオヨシキリ

夏になると菅生沼には、様々な夏鳥がやってきます。なかでも、沼のヨシ原のあちこちで騒々しいくらいにさえずるのがオオヨシキリです。縁が濃くなるころ渡来し、ヨシ原で繁殖をする代表的な鳥です。体長18cm、スズメより一回り大きく、尾がすらっと伸び、スマートな体形をしています。全身褐色で地味に見えますが、さえずるときに見せる大きな口の、赤い色が印象的です。



さえずるオオヨシキリ

平成10年、菅生沼の上沼で、オオヨシキリの渡来から、なわばり形成の様子を観察しました。4月21日朝、上沼でシーズン最初のオオヨシキリを6羽確認しました。そのときのさえずりの場所を図1に示します。



図1 H10.4.21上沼でオオヨシキリがさえずった場所

一定の場所に集中して集まるのではなく、分散して、なわばりを確保をしているのがわかります。通常、オオヨシキリはオスが先に渡来します。そして、各自のなわばりを確保し、後からやってくるメスを待つので。メスは約10日ほど遅くや

ってきて、オスの確保したなわばりを回り、気に入った相手とつがいになります。オスは、良いなわばりを手に入れ、いかに自分が優れているかを示さなければなりません。メスを獲得できるかどうかが、かかっていますから、必死の思いでさえずり、ライバルの進入を防いでいるように見えます。その周囲の一番高い草や木の先端でさえずるのも、目立つところで鳴いて、自分のなわばりを主張する意味があります。



周囲より背の高い枯木でのさえずり

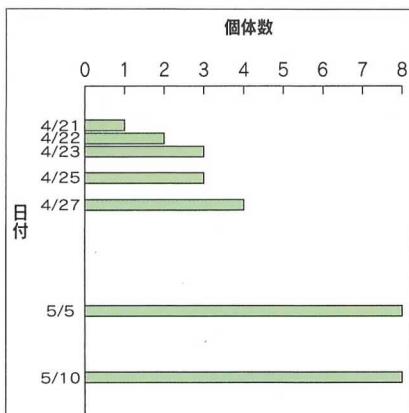
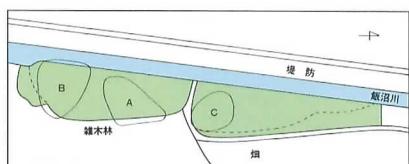
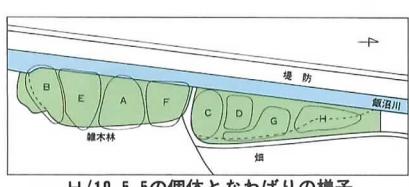


図2 さえずり個体数変化



H10.4.23の個体となわばりの様子



H10.5.5の個体となわばりの様子

※アルファベットは渡来順

図3 なわばりの変化

ある場所のさえずり個体数の日毎の変化を図2に、渡来当初と、つがい形成期のおおよそのなわばりを図3に示します。これを見ると、この場所では、2週間ほどの間に次々にオスがやってきて8羽がなわばりを確保したことがわかります。

一般に、早く来たオスがもっとも良い条件の地域をなわばりにし、それらのすき間を埋めるように後からきたオスが入り込みます。ですから人気の場所のなわばり境界線上では、となり同士のオスの激しい衝突が頻繁に見られます。

図で示した場所では、そういう激しいなわばりあらそいは、ほとんど起きました。十分な広さがあるからなのか、争いが起こるほど人気がないのか、定かではありませんが、平和的になわばりの境界線が決まっていきました。

メスがやってくると、オスは求愛行動である後追いや求愛給餌をはじめます。つがい相手が決まると、頻繁になわばりを飛び出し、巣材を探して戻ってくる行動が見られるようになります。

菅生沼でのメスの渡来日ははっきり特定することができませんでしたが、5月5日にはさえずりをしないメスと思われる個体と、それに求愛行動をするさえずり個体を観察できましたので、オスのなわばり確立とほぼ同じ時期に第一陣のメスがやって来ていると考えられます。



調査地の一部

一般的には、つがい形成後、巣づくり、6月には産卵、抱卵(約14日)、ふ化、育雛(約14日)となり、7月には巣立ちした若鳥が見られるようになります。

菅生沼では、繁殖行動そのものについて十分な調査が行われていませんので、今後、産卵以降の生態について更なる調査をしていきたいと考えています。

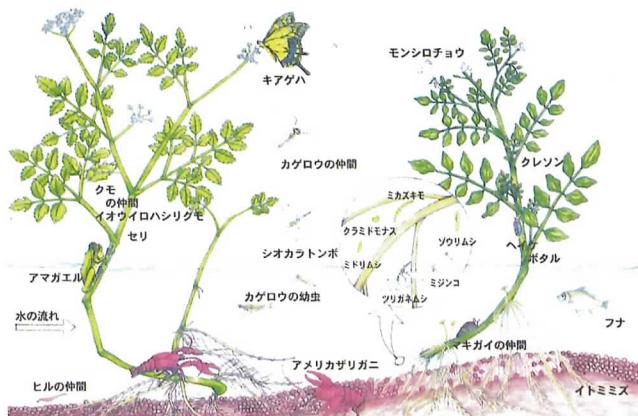
(資料課：石塚)

野外紹介●とんぼの池－水環境学習体験装置

博物館の野外、とんぼの池のそばに新しく「水環境学習体験装置」ができました。これは水生植物の苗を植えつけて育てるこにより、植物による水質の浄化と多様な生き物の育成を同時に実現し、環境学習に貢献することを目的に、文部省委嘱事業「科学系博物館ネットワーク推進事業」の一環としてつくられたものです。

今回は、その装置の仕組みと植えた植物、及びそこに集まってきた生き物を中心に紹介します。

この装置は、とんぼの池の水を汲み上げて植物の間をゆっくり流し、再びその水をとんぼの池に戻す仕組みになっています。♪



水净化と生き物の様子のイメージ

この装置に植えつけた植物は、クレソン、セリ、ポンテデリア、ワスレナグサ、ミント、ルイジアナアイリス、ミソハギの7種類です。この植えつけには、岩井市立七郷小学校の2年生58名とその保護者が協力してくれました。あいにくの小雨模様でしたがみんなはどろんこになりながらも一生懸命に植え付けてくれました。



水環境学習体験装置の全景

とんぼの池の水を濁らせている原因の一つに、水に溶け込んだチッ素やリンなどが植物プランクトンを増殖させていることがあります。この水の中にあるチッ素やリンを含む浮遊物は植物の根にぶつかって沈んだり、植物の成長に使われたりします。さらに、植物プランクトンは微小動物の餌となります。こうして濁った水はこの装置によりきれいになります。♪



岩井市立七郷小学校2年生親子の植えつけ



クレソン
(アブラナ科)



セリ
(セリ科)



ポンテデリア
(ミズアオイ科)



ワスレナグサ
(ムラサキ科)



ミント
(シソ科)



ルイジアナアイリス
(アヤメ科)



ミソハギ
(ミソハギ科)

今までに観察できた主な生き物は、

魚類：ドジョウ・モツゴ・ハゼの仲間

昆虫類：ギンヤンマ（ヤゴ）・シオカラトンボ（ヤゴ）・アジアイトンボ・オンブバッタ・ヒメカメノコテントウ・キアゲハの幼虫・スジグロシロチョウ

その他：スジエビ・アメリカザリガニ・ウシガエルの幼生（オタマジャクシ）・クモの仲間・ヒルの仲間・巻き貝の仲間

などです。その一部は、自然発見工房でも現在観察できるようにしてあります。

みなさんも博物館を訪れたら、水環境学習体験装置で水の様子やどんな生き物が見られるかじっくりと観察して下さい。

（教育課：櫻井）



キアゲハの幼虫のようす



ギンヤンマの羽化のようす

歳時記●冬の天の川を見たこと、ありますか？



「オリオン座付近の天の川」（北茨城市定波にて）博物館からは見ることのむずかしい天の川も、山奥に入ればご覧のとおり

冬になりました。太平洋側では、北よりの風が吹き晴天の日が続きます。空気中の水蒸気濃度が低いので、星からの光が散乱されることもなく、空の中に星がひきたって見えます。特に天の川が流れるオリオン座付近には、一等星がたくさんありますので、きらきらと派手にまたいて目にとまることとおもいます。

この「またたき」とは、大気の揺らぎ

によって星からやってくる光の通り道が微妙にずれる現象です。冬は日本上空にジェット気流が卓越し、特に揺らぎが大きくなります。天体写真を撮るにはシャッターを数分間開け放しにするのですが、その間ずっと星はまたたいているので、フィルム上での星の像は大きく広がり、はっきりしないできばえの写真になってしまいます。ですから各国の研究機

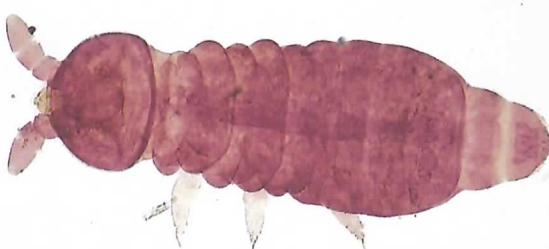
関では、大気の影響が少ないハワイ・マウナケア山頂（標高4205m）に天文台を建てたり、空気のない宇宙に望遠鏡を運んだりしているのです。

しかし、数少ない好条件の望遠鏡で十分な観測ができるわけではなく、条件がさほどでなくとも生活地域から近い所でたくさんの観測ができることが必要です。ところがここ数十年來の近代化で、日本の夜空はだいぶ明るくなりました。生活の安全を守るために夜間照明は欠かすことはできませんが、大部分の照明装置は空に向かった光を放つような構造をしています。これらの光が大気中に充満し、星を見えなくしているのです。このような状態は、星や月の明かりを頼りに生活する動物にも大きな打撃を与えています。最近では、日本の海岸で孵化したアカウミガメが人工光に惑わされて海に帰れず、絶滅の危機に瀕しているそうです。

将来を担う子供達の豊かな心を育てるためにも、同じ地球の生き物である動植物を守るためにも、暗い夜空を大切にしたいものです。

（資料課：高橋）

トビムシの完模式標本 2 種 収蔵品紹介●ツクバムラサキトビムシとサカヨリムラサキトビムシ (節足動物門 昆虫綱 トビムシ目 ムラサキトビムシ科)



ツクバムラサキトビムシ

生物には全て世界共通の名前として学名が決められていますが、今までに記録されていない新しい生物が見つかった場合、その種の特徴が論文にまとめられ、新しい学名とともに発表されます。その記載に使用した標本の一つを、その種の基準として指定したのが「完模式標本(正基準標本)」です。

平成 7 年から 9 年にかけて当館で実施した筑波山の総合調査の中で、土壤動物のトビムシ 2 種が新種として発見されま

サカヨリムラサキトビムシ

した。このムラサキトビムシ科ムラサキトビムシ属の 2 新種は、茨城大学名誉教授の田村浩志氏によりそれぞれ、*Hypogastrura tsukubaensis* (ツクバムラサキトビムシ) と、*Hypogastrura sakayorii* (サカヨリムラサキトビムシ) と記載命名され、専門誌に発表されました。その完模式標本がこの写真的標本です。完模式標本は世界で唯一であり、その学名の安定にとても大切なことで、公的に安全な場所に保管することになってお

ります。これら 2 種の完模式標本および副模式標本は当館の収蔵庫にプレパラート標本の形で大切に保管されています。

（教育課：栗栖）

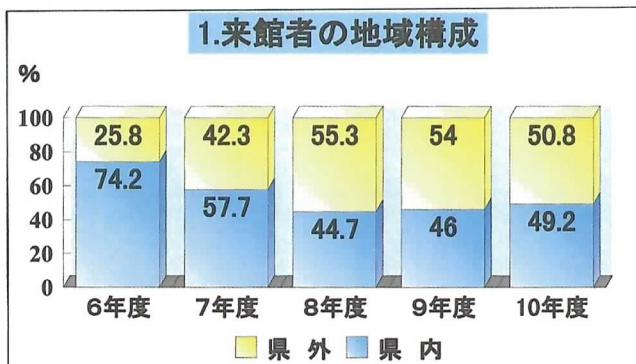
トビムシ：体長 1 ~ 2 mm 程度の小さな虫で、翅はないが 3 対の脚をもち、分類学上は昆虫の仲間。トビムシと言う名の通りピョンとよく跳ねる。森林土壤中の生息密度は 1 平方 m当たり数万個体にもなり、日本では約 400 種、世界では数千種が報告されている。

ワイドピックス●開館4周年

自然博物館は平成6年11月13日に開館して以来、今年の11月13日で4周年を迎えました。そして11月1日の「開館記念日アミューズデー」(開館日は11月13日ですが、この日は館が独自に定めました。サイエンスデー「茨城・科学の日」となっておりますので、11月の第一日曜日を「開館記念日アミューズデー」としています。)には、毎年様々なイベントを行っています。今年は映画鑑賞とミュージアムコンサートを行いました。3階映像ホールで、開館4周年にちなみ、映画「筑波山の四季」の上映を行いました。続いて筑波大学の学生の皆さんによるミュージアムコンサートを行い、こちらは「弦楽四重奏」による、ビバルディ作曲の「四季」をはじめ、なじみ深い曲を演奏し、美しい調べが会場内に響きわたりました。



来館者アンケートにご協力お願いします



自然博物館では、ご来館された皆様についての情報や、博物館についてのご意見をお聞きする来館者アンケートを行っております。このアンケートは、年に4回、5、8、11、2月を中心に、1回につき5日間程度の日程で実施し、ご協力いただいた方にはアドベンチャーブックを差し上げております。また、ご回答いただいたアンケート結果については、集計した後でお客様のご動向・ご意向についての分析を行い、アンケート結果を博物館運営に活かしていくよう努めています。今回は、平成10年度上半期分までに集計したアンケートの結果について、簡単にお伝えします。

1. 地域構成

開館当初は7割以上の方が茨城県内でしたが、次第に県外が増え、平成8年度には半数以上が県外となりました。しかし、近年県内が増えつつあり、現在では県内と県外でほぼ半数ずつとなっております。

2. 来館回数

2回以上来館された方の割合も増え続け、平成10年8月の調査では、6割以上の方が2回以上来館しています。また、5回以上来館された方も、2割近くにのぼっています。

皆様から寄せられたアンケートは、より良い博物館を作っていく上でも非常に重要なものですので、来館者アンケート実施時には是非回答にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

コラム by director NAKAGAWA ○うさぎ年

1999年の干支は卯、動物ではウサギ(兎)を当てます。カレンダーや年賀状には白くて赤い目のウサギがよく登場しますが、本来は黒褐色の毛色に黒い目が本当でしょう。というのは、もともと日本に住んでいるウサギは野ウサギ(野兎)で、白いウサギは海外から輸入(明治初期)したものだからです。

それに、白いウサギは土の中に穴を掘って住むアナウサギという種類が家畜化されたもので、分類の上でもかなりちが

います。しかし、耳が長く、前足よりも後足の方が遙かに長いことなどは共通しています。両方とも、野生状態では弱い立場ですので、長い耳で安全を確かめ、危険を察知すれば、時速72キロという素晴らしいスピードで、それこそ「脱兎」のように逃走するのです。

卯年の「卯」は植物の種子から双葉が萌えだした形の象形文字、ウサギのジャンプ力とともに新年にふさわしいように思います。



トピックス● 9月～11月

第1回自然博物館菊花展示会 11月7日（土）～23日（月）

このたび、自然博物館初の「第1回自然博物館菊花展示会～菊とその仲間たち～」が、1階の企画展示室を会場に開催されました。岩井市菊花会のご協力で、厚物64鉢、管物25鉢、懸崖2鉢、松作り6鉢、盆栽作り8鉢の合計105鉢をご出展いただきましたほか、岩井市立七郷小学校の6年生児童が、同会のご指導により育て上げた菊花も20鉢展示されました。会場内には菊の香りが漂い、また菊の見事な出来に来館者の方々も魅了されました。



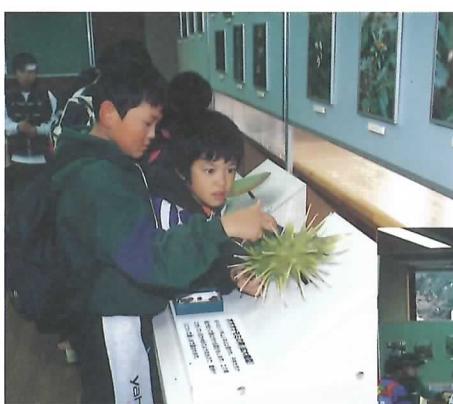
自然講座「霞ヶ浦の生いたち」 11月8日（日）

メイン会場の自然博物館と、サテライト会場の牛久自然観察の森、雪入ふれあいの里公園の3施設を専用回線で接続して、インターネット多元接続セミナー「霞ヶ浦の生いたち」が行われました。これは、サテライト会場からでもメイン会場に質疑応答ができるように多元的に中継を行い、サテライト会場でも自然博物館にいるのと同様に講座が受けられるようにしたものです。筑波大学助教授の池田宏先生を講師に迎えて、日本第2位の面積を誇る霞ヶ浦の成立の歴史について、多元接続の特性を生かし、映像資料を多く用いた分かりやすい解説をしていただきました。



視覚障害者のための特別展示 11月21日（土）～29日（日）

触って、擗んで、確かめる、視覚障害者のための特別展示を、セミナールームAで行いました。これは、昆虫・植物類の拡大模型や、動物のはく製、鉱物や化石など、目の不自由な方をはじめ、来館者の皆さんならどなたでも実際に触ってみていただくことのできる特別展示で、今年で3回目になります。今回も多くの方々にご来場いただき、期間中のべ871名の方にご来場いただきました。来場された方々は、120点にのぼる展示品を、ひとつひとつさわり、その感触を確かめながら展示をご覧になりました。また、サベルタイガーの模型やフタコブラクダのはく製等、非常に大きなものも展示され、小さなお子さんの人気の的となっていました。



第14回企画展記念イベント 四六のガマ・山麓のそば

11月1日、15日（日）

11月29日まで開催された、第14回企画展「筑波山のブナは何をみてきたか」の記念イベント「四六のガマ・山麓のそば」が行われました。新治村小町の館・林正一館長による「ガマの油売り」の口上実演が行われ、ユーモラスな身振り・手振りを交えての熱演に、参加者の皆さんも大歓声で応えていました。また、新治村大畑そば愛好会の皆さんによる筑波山麓そばの手打ち実演・体験や、試食会などが行われ、多くの方がその場で打たれたそばを実際に味わい、「腰があって、とてもおいしい」と、大変好評でした。



インフォメーション(1~3月の行事)

自然観察会

- 1月24日(日) 『照葉樹林の観察(鹿島神宮)』
- 2月28日(日) 『地層を読む(玉造町)』
(対象: 小学4年生以上)
- 3月28日(日) 『霞ヶ浦の生き物たち』
※集合場所・定員は観察会ごとに異なります。

自然講座(定員: 40名)

- 3月7日(日) 13:00~15:00 『不思議な変形菌』
(対象: 中学生以上)

自然教室(定員: 40名)

- 1月9日(土) 17:00~19:00 『天体望遠鏡で土星の環を見よう』
- 2月13日(土) 10:00~12:00 『冬の昆虫を観察しよう』
- 3月13日(土) 10:00~12:00 『日だまりの植物』
(対象: 小中学生)

サンデー・サイエンス【楽しい体験教室】

月ごとにいろいろなテーマで、毎週日曜日にディスカバリー・プレイス内のスタジールームで実施しています。

観察や実験、工作などの体験をとおして、楽しみながら自然への関心を深める機会です。

テーマ

- 1月『顕微鏡で化石を見よう』
 - 2月『種の不思議を調べよう』
 - 3月『小さな虫を大きくつくろう』
(3月21日は行いません)
- 時間 午前の部 10:30~12:00
午後の部 14:00~15:30
(ただし2~2月の冬期間は午後1回のみ実施)
- 受付 開始時間の1時間前から、スタジールーム前で受け付けます。希望者多数の場合は抽選を行います。

映画会(定員: 300名)【3階映像ホール】

- 1月17日(日) 『海が呼ぶ少年』
 - 2月21日(日) 『モモ』
 - 3月14日(日) 『トリ・ムシ・サカナの子守歌』
- 上映時間 14:00~(3月14日は13:00~)
入場無料

[観察会等への申込方法]

2週間前までに電話で申し込んで下さい。なお、希望者多数の場合は、抽選を行います(講座は先着順)。
ミュージアムパーク茨城県自然博物館
TEL 0297-38-2000

自然なんでも相談

- | | |
|----------|--------------------|
| 相談日 | 1月10日(日) |
| 2月14日(日) | 3月14日(日) |
| 場所 | ディスカバリー・プレイス観察コーナー |
| 時間 | 13:30~15:00 |

その他のイベント

- 1月10日(日) ヘイニング氏講演会
- 2月11日(木) 小谷実可子氏講演会
- 3月14日(日) ホエールウォッチングツアー
- 3月21日(日) サイエンスデー(宇宙・科学の日)
空とぶ鯨を飛ばそう

■は休館日です。

| 1月 | | | | | | |
|----|---|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | ■ | 2 |
| 3 | ■ | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 10 | ■ | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 17 | ■ | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 24 | ■ | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 31 | | | | | | 30 |

| 2月 | | | | | | |
|----|---|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 1 | ■ | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | ■ | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 14 | ■ | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 21 | ■ | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 28 | | | | | | 27 |

| 3月 | | | | | | |
|----|---|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 1 | ■ | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | ■ | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 14 | ■ | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 21 | ■ | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 28 | ■ | 29 | 30 | 31 | | |

【交通案内】



- 常磐自動車道谷和原I.C.から20分。
- JR柏駅で東武野田線乗り換え、東武野田線愛宕駅～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分。



ご利用案内

[入館料]

| 区分 | 本館・野外施設 | 野外施設のみ |
|--------|------------|------------|
| 大人 | 510円(410円) | 200円(100円) |
| 高校・大学生 | 310円(200円) | 100円(50円) |
| 小・中学生 | 100円(50円) | 50円(30円) |

(注) () 内は団体料金(20人以上)
企画展開催期間中については別料金となります。

つぎの日の入館料は無料です。

- 3月21日(春分の日)
- 4月29日(みどりの日)
- 6月5日(環境の日)
- 11月13日(茨城県民の日)
- 高校生以下の児童・生徒は、毎月第2・第4土曜日は入館無料です。(但し、春・夏・冬休み期間を除く)

[開館時間]

午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

[休館日]

- 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
- 年末年始

[編集後記]

11月17日の深夜から翌日の早朝にかけて、しし座流星群が33年ぶりに現れ、素敵な天体ショーを見せてくれました。明

け方に東の空を眺めると、数分に1回くらい、尾を引いて星が流れて行くのがわかりました。流星「雨」とまではいかなかったのですが、流れ星を見たことのな

かった私には満足のいくものでした。来年にも見られる可能性があるそうですので、期待して待ちましょう。(N. I.)